

おとなの本

新刊・近刊から

『まってる』(デヴィッド・カリ/セルジュ・ブロック作
小山薫堂訳 千倉書房 2006.11)

おとなの絵本と言ってしまっはいけないかしら。人の一生は、待つことだと。与えられることだと？私は生臭い人間なのでまだ、そのしんきょうになれないけれど、共鳴する人々が多いそうです。

『求めない』(加島祥造著 小学館 2007)

求めない→簡素な暮らしになる。求めない→いまじゅうぶんに持っていると感じる。求めない→いま持っているものがいきいきとしてくる...。「求めない」という想念から生まれてきた詩集。未だこの心境にはなれませんが、あなたは？

『猫のあしあと』(町田康著 講談社 2007.7)

ネコは苦手の私ですが、文庫のあの人を思うとついつい手が出てしまいました。『猫にかまけて』の第2弾。

『爆心』(青来雄一著 文藝春秋 2006.11)

私がだれでありどこからきたのか。六十年以上のときが流れて私にはもう調べるすべもない。わかっているのは、私は昭和二十年八月九日十一時二分の白い光の中から現れたことだけである...。(帯より)

『老い力』(佐藤愛子著 海竜社 2007.11)

...老年は人生最後の修行の時。孤独に耐えて立つ老人になりたい！(帯より)

『書庫の母』(辻井喬著 講談社 2007.10)

落葉、書庫の母、いもうと探し。遅い詫状、死刑囚と母、余生の6篇からなる。波乱の人生のはてに辻さんの想いは...。私的短編小説集。リクエスト本。

『夜明けの縁をさ迷う人々』(小川洋子著 角川書店 2007.8)

もし、あなたが世界からこぼれ落ちてても、私が両手をのばして、うけとめてよう。9つの短編。人生は、そんなにもつらいものですか？

『中原の虹』(浅田次郎著 講談社 2006~2007)

張作霖、西太后、袁世凱、梁文秀...。中国近代歴史小説の髓完結。リクエスト本。

★そのほか、寄贈本、古本でもきれいな懐かしい本がたくさん入庫してます。

♥♥文庫あれこれ♥♥

◆最近、ダイニングにこもって新しく入会して下さったみなさんのお顔がわからなくなりました。これからは、交代で、中西さん、森川さんにまぜてもらって、貸出机にもずわりたいと思います。◆先月末の大室高原自治会主催の文化祭で久しぶり

にコーラスを聞き、一緒にみんなで声をあわせて歌わせていただきました。クリスマスおたのしみ会にも歌いましょうね！(西)

♥♥これからの催し物予定♥♥

♥クリスマスおたのしみ会♥

日にち：12月16日に変更

時間午後1：00~3：00

小学生のみなさんに来ていただけるよう、変更しました。この日は、文庫の」お年の大きい人との交流会でもありません。おかあさん方ぜひお子さんをお連れください。

昨年同様、みんなでクリスマスを楽しみましょう。

今年は地元の会員が語り手です。

手遊び、わらべうた、伊豆の昔話や、グリムのおはなし、おかあさんと男の子の心あたまるおはなし、クリスマスらしいおはなし。最後はみんなで大きな声でうたいましょう！

☆☆参加する人は、ツリーに飾る手作りオーナメントをひとつと、プレゼント交換をするので、プレゼントをひとつもってきてね☆☆

★上記のため、朝の「小さなおはなし会」はありません。

小さい人たち午後を楽しみにきてね！★

《楽しんで読み聞かせ・頑張っておはなし》 みんなで勉強会

★勉強会は、毎月、文庫の前日の金曜日午後2：00から。

関心のある方は、お申し出ください。

一次回は12月14日です—

★1月は休みます。

☆☆今後の開館スケジュール☆☆

◆12月は、15(土)、16(日)の両日です。

◆新年1月は、19(土)、20(日)の両日です。

◆文庫の時間は土曜日は午後2時~5時、日曜日は午前10時~午後3時

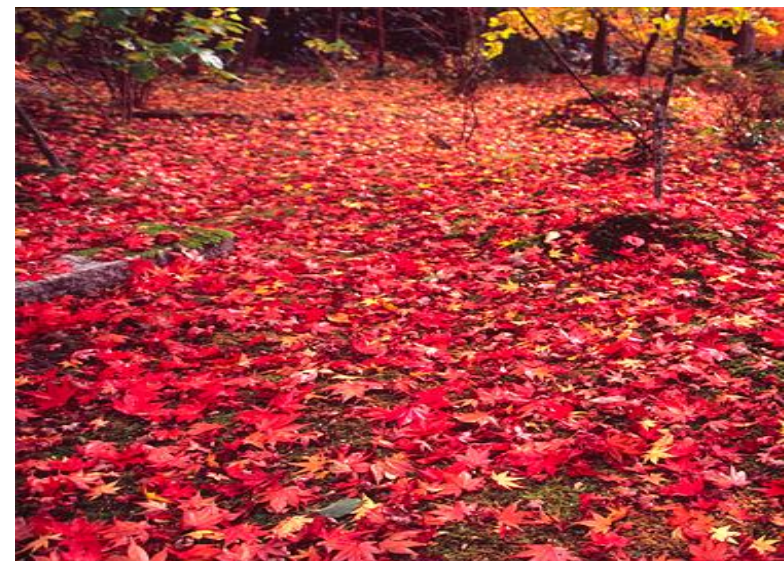
◆毎月開館日の日曜には、子どものための小さなおはなし会があります。(12月は、なし)午前10：30~11：00

◆文庫開館日は毎月、第3日曜とその前日の土曜日の2日です(従って第3土曜日でなく第2土曜日ということもあります)。

沙羅の樹文庫だより

No.15

(2007年11月号)



ポカポカ陽気が続いた後、天気予報があたって昨日から急に寒くなりました。このあたりの木々も色づきながら葉を落としていっているようです。

寒くなるとああ、今年もあと1月あまりか、と急に月日が過ぎゆくのを感じます。

10月末の大室自治会文化祭で文庫本をたくさん、仕入れ?ました。文庫本愛読者さん、お楽しみください。

小さなお友だち!

新しいクリスマスの本も入りましたよ!

秋の夜長のおはなし会 07 ご報告

昨年に引き続き、秋もたけなわ、宵闇せまる頃から 20 人以上の方が参加してはじまったおはなし会、いつも本を借りるところと雰囲気違って見えます。今回は、杉村さんご夫婦と宮崎さんのお三人と沙羅の樹同人の語りで聴いていただきました。プログラムをご紹介しますと、おどる骸骨、犬とねことうろこ玉は日本の昔話、ピリー、日暮れの海物語、妖精の花嫁ポリー、梅津忠兵衛は創作。少し怖かったり不思議な世界を楽しんでいただけだと思います。翌日の「小さなおはなし会」は、宮崎さんの手遊びやおはなしに小さなお友だちも大喜びでした。

♡ひととき♡コーナー

「しずかな夫婦」

中西景子

先日町内会文化祭には、大変な雨の中たくさんの方が来て下さって無事に終わりました。みなさまのご協力ありがとうございました。

その時のおはなし会で、西村さんが読んでくださった天野忠さんの詩『しずかな夫婦』、「にしんはきらいです」という最後にいたる夫婦の経過がとても心に残りました。天野忠作ときいて、気にかかって調べたら、やっぱりありました。山田稔著「北園町九十三番地—天野忠さんのこと」(編集工房ノア刊)という本です。2000年にでた本ですが、出た時新聞の書評や友だちの間でちょっと話題になり読んでみたいと思っているうちに忘れてしまっていました。西村さんがすぐに見つけてくださいました。1982年に読売文学賞・詩歌俳句賞をもらった人ですが、詩はもちろんこの「しずかな夫婦」がはじめてでしたが、この本で「図書館に勤めて詩を書いていた天野忠さん」とお知り合いになったような親近感をもち、他の詩も読んでみたいと思いました。(図書館にはなくて、今まだ読んでいません。)

著者の山田稔にも日本エッセイスト・クラブ賞をとった「ああ、そうかね」という本があるらしい。ちょっと気をそられる、おもしろそうな書名ではないですか？

子どもの本

『きゅっきゅっきゅ』(林明子さく 福音館書店 1986)

くつくつあるけのほん3です。20年以上親しまれている幼児絵本。ようやくひとりあそびができるようになった子どもにぴったりの本。シリーズ順次在庫予定(絵本)。

『かじりのがっこう(おしりかじり虫ものがたり)』(うるまでるび作 バジリコ 2007)

4歳の孫娘が、パンツをちょっとおろしてお尻を見せながら歌っていたので、何ですか、お尻を出してと叱ったらNHK「みんなのうた」で人気の歌だそうで、これはそのオリジナルストーリーだとか。孫の格好があまりおかしかったのでついタイトル見て買ってしまいました。どうなのでしょう？(絵本?低学年読み物?)

『バムとケロの春、三、TEL 零四五篇そらのたび』(島田ゆか作・絵 文溪堂 初版1994 42刷2007)

子どもたちに大人気の「バムケロ」シリーズ。S君入ったよ。もっと新しいのも出るといいね!(絵本)

『トラさん、トラさん、木のうえに!』(アヌシユカ・ラヴィシャンカール作 プラク・ビスワス絵 評論社 2007) トラが?木のうえ?ばかな!まさか!さて、どうしよう?とても楽しいインドのおはなし(絵本)

『こねこのチョコレート』(B. K. ウィルソン作 小林いづみ訳 大社玲子絵 こぐま社 2004)

弟の誕生日に用意した「こねこの形したチョコレート」を女の子は食べてしまう、そんな気持ち、経験あります!『おはなしのろうそく』(東京子ども図書館)に掲載されたものを絵本化。

『あこがれの星をめざして』(ラッセル・ホーバン作 パトリック・ベンソン絵 久山太一訳 評論社 1999)

こわい経験をして、飛べなくなった海鳥のヒナ、飛べるようになるのでしょうか?(絵本)

『チクチクのおばけりょう』(舟崎克彦作絵 アカネ書房 2007)

はりねずみのチクチクは旅の途中、おばけの落とし穴に落ちてしまいました。「はりねずみ」大好き子どもたち読んでみて!5~7歳向き(低学年読み物)

『サリーおばさんとの一週間』(ポリー・ホーヴァス作

北条文緒訳 偕成社 2007)

両親がパリへ旅行。ところがいつものシッターが病気で、そこで、サリーおばさんがカナダからやってきた。さて、何がおきるのか?こんなおばさんになりたい。とても楽しく読めますが、人間の絆を考えさせられる場面もあり、読み甲斐あり。(中高学年)

『クリスマス☆ブレイク』(ジャクリーン・ウィルソン作 尾高薫訳 理論社 2006)

クリスマスだって悲しいことがある。でも…。(中学生)

クリスマス本

『クリスマス・正月の工作図鑑』(いかにだ社 2007)

『クリスマス』(バーバラ・クーニー 長崎出版 2007)

『ふたりはクリスマスで』(イローナ・ロジャース そうえん社 2007)

『こねこのバベット』(ニューベリー ブッキング 2007)

『世界にひとつしかクリスマスツリーがなかったら』(池谷剛一 パロル舎 2007)

『ベッキーのクリスマス』(ターシャ・チューダー メディアファクトリー 2007)

『馬小屋のクリスマス』(リンドグレーン ラトルズ 2007)

『わたしクリスマスツリー』(佐野洋子 講談社 2006)

『ねずみにとどいたクリスマス』(ヴィルコン絵 2007)

『クリスマスにきたユニコーン』(アナ・カーリ 2007)

☆文庫にはまだまだ! クリスマスの本がありますよ☆

★読んでみてください!★

『綱渡りの男』(モーティカイ・ガースン作 川本三郎訳 小峰書店 2005)

先日、東京の自宅の本棚を移動させていて、発見。2003のコレドコト賞受賞とあります。それで、当時、購入したのでしょうか。そのとき読んだかも定かではありません。でも、今このとき、なぜか私に強く痛切に語りかけてくる絵本です。

1974年、ひとりの若い大道芸人がニューヨークの高さ400メートルの高層ビル2つの間に2センチのワイヤを張って、8.5メートルのバランス用の棒を操り、踊りながら綱渡りをした、本当の話です。心臓がつかまれ、何だか、この頃前傾してきた老いた体がピンと張った気持ちになりました。夢でしょうか、勇気でしょうか、狂気でしょうか。絵本の作りもすばらしいです。なぜ、買ったとき気づかなかったのか。

彼が渡った2つのビルは、今はもうありません(あの9.11に崩壊したツインタワーだったのです)。(西村)